

格差と貧困 広がる二極化の中で

私たちの働く権利って？

龍谷大学法学部教授 脇田 滋

2007.11.29

なっています。2004年3月から製造業にも派遣が解禁されましたが、当初、派遣受入は1年までに限定されました。実際には、製造業では偽装請負が広がっていたのですが、派遣解禁以降も派遣法の規制を避けて、適法な派遣への切り替えがされませんでした。そのために偽装請負の蔓延が逆に浮かび上がるようになったのです。

現在、偽装請負をめぐって、法的には、①偽装請負か、実体のある適法な請負かという基本問題以外に、②偽装請負の場合、労働者が、発注企業との間に雇用関係があると言えるか（直接雇用）、③②で雇用関係があるとして、それが常用雇用と言えるか、④受入企業は、請負労働者が加入する労組との団体交渉に応ずる義務を負うかが焦点になっています。

日々労働契約を結んで働く 極限の不安定雇用

次に弊害が問題になっているのが、日雇い派遣です。今年8月には最大手のフルキャストが違法派遣を繰り返していたとしてかなりの事業所・支店に「事業停止命令」が出されました。また、法的根拠がない天引き問

また、公的就労事業も実施されていましたが、政府は70年代以降、日雇い労働者のための各種制度を縮小してきました。ところが、99年派遣法改正で、対象業務が原則自由化され、1日・数日の「スポット派遣」も容認されました。さらに電子メールでの派遣先就業条件の明示が可能になり、携帯電話を利用する日雇い派遣のシステムが広がる背景になっています。

「4〜5割もピンハネされている」「朝早く集められたが労働時間に算入されない」「慣れない引越業務で社員に怒鳴られ、蹴られることもあった」「凍るような深夜の警備業務で体調がおかしくなった」など、日雇い派遣労働の実態は、①日々雇用の不安定さ ②派遣＝間接雇用の弊害が加わって最悪の無権利な働き方です。

偽装請負や日雇い派遣では、正社員と同じように働いていても格段に低劣な労働条件です。また、何時でも切り捨て可能なフルタイム非正規雇用というのが特徴です。その半面、企業は安い労働力利用が可能となり、大きな利益をあげることができ

第9回 偽装請負と日雇い派遣 禁止すべき極限の劣悪雇用

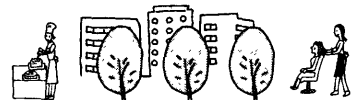
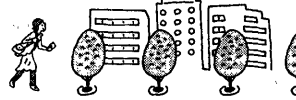
まさに、「格差社会」の縮図であり、ワーキング・プアと呼ばれる労働者の受皿とも言える働き方です。

法的には、こうした偽装請負は、派遣法に違反する違法派遣であるとともに、職業安定法が禁止する「労働者供給事業」に該当すると考えられます。

本来の請負であれば請負企業は独立していなければならず、受入企業は、その労働者を直接指揮して働かせることができます。偽装請負は、受入企業の社員が請負企業の労働者に直接指示して働かせたり、両社の労働者が混在で就労するなど、実態は派遣と変わらない働き方

題をきっかけに、いくつかの日雇い派遣企業で労組が結成され、裁判も提起されています。本来、日雇い労働は、日々新たな労働契約を結んで働く、極限の不安定・劣悪雇用です。第2次大戦後、建設、港湾などの業務を中心に広がりました。職業安定法や港湾労働法で、悪質仲介業者の弊害に対する規制が導入されたり、日雇い労働者独自の失業保険、健康保険が制度化されました。

「偽装請負」を蔓延させ、世界に例のない「日雇い派遣」を合法化した政府の責任は重大です。ところが財界は、「恵まれ過ぎている」と攻撃の矛先を正規労働者・公務員に向けて、労働法の規制緩和を一層進めようとしています。ねじりは「雇用全体劣悪化」です。これに対抗するためにも、偽装請負や日雇い派遣を無くすことが、避けられない課題となっているので



労働者派遣は適法な場合でもさまざまな問題を含んでいます。偽装請負は、派遣法が定める派遣先の責任さえ逃れようとするものです。派遣であれば、労働基準法などについて派遣先責任が明記されています。こうした責任を回避することが偽装請負利用の最大の目的だと考えられます。

とくに、現行派遣法では、製造業務では1年から上限3年の派遣期間を超えたときには派遣先に直接雇用義務が生ずるとい

労働法を考える

脇田滋先生の本が10月に出版されました。非正規雇用、不払い残業、雇止め、ワーキングプア、過労死、過労自殺…。日本の職場で「労働法のない世界」と呼ばれる状況が広がっているなか、なぜ働くルールが必要なのか、それ

はどんな法体系か、国際的な流れもふまえて解き明かしています。

【目次】第1章 命と暮らしを脅かす働き方の拡大／第2章 働くルールが必要な労働者／第3章 働くルールの形成と発展／第4章 世界の働くルール／第5章 日本の制度と大企業の思惑／第6章 働くルールの確立のために（その1）／第7章 働くルールの確立のために（その2）

新日本出版社 1600円＋税

